

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和4年8月31日現在）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■就農希望者 飛騨高山の農業を見て・聞いて・感じる～飛騨高山就農体感ツアー～

8月20、21日の2日間、高山市就農支援協議会が就農希望者を対象に「飛騨高山就農体感ツアー」を開催し、今年度は東京、大阪での就農フェアの相談者を含め、県内外から11名が参加した。

就農体感ツアーでは、高山市内の指導農業士を訪問し、野菜（トマト、ほうれんそう）及び果樹の栽培や経営について学んだ。加えて、新規就農者から就農までの道のりや長期研修生の就農への思いなどの話を聞いた。

途中、トマトの収穫作業体験も盛り込まれ、参加者は飛騨高山の農業を体感することができた。ツアー終了後、希望者には個別面談を行い、就農に対する思いや移住も含めた相談を今後も継続して行うこととなった。

農業普及課は、協議会メンバーとして関係機関と連携して就農希望者への面談から短長期研修への誘導、就農への支援を行う。



【視察先で収穫作業体験】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト 自動開閉機による着色促進実証試験に向けて

飛騨野菜出荷組合トマト部会を中心とする飛騨夏秋トマトスマート農業協議会では、昨年度より夏秋トマトにおけるデータ駆動型農業の実証に取り組んでいる。

9月からは管内5か所の生産者ほ場において、環境データに基づきサイドビニールの自動開閉機を制御し、秋期の保温効率を高めることで果実着色促進を行う実証試験を開始する。

農業普及課では、8月中旬から各実証ほ場で、複数回に分けて開花直後の果房に調査用タグを取り付けるなど実証のための準備作業を行った。今後、9月中旬に自動開閉を開始し、タグをつけた果実の収穫までに要した期間を比較する計画である。



【果実へのタグ付け作業】

■ほうれんそう 清見・荘川ほうれんそう部会の調製場巡回

8月4、5日、清見・荘川ほうれんそう部会では、部会役員とJAひだ営農指導員、普及指導員で全会員の調製場巡回を行った。

袋詰めなどの調製時に異物混入が発生しやすいことから、調製場の状況を確認するため実施したもので、飛騨ほうれんそう部会の目指す「信頼（あてに）される産地へ」に向けた活動の一環である。

巡回では、「照明は適切な明るさであるか」、「はさみや定規は決められた場所に置かれているか」などの調査項目に従ってチェックした。

結果、全部会員ともすべての調査項目において問題は見られず、農業普及課では今後とも「飛騨ほうれんそう」の品質確保に向け関係機関と連携して支援を行っていく。



【ほうれんそうの調製場】

■水稻 吉城酒米生産組合現地研修会を開催

吉城地区の酒米生産者からなる吉城酒米生産組合は、8月23日に適期収穫の徹底を目的に現地研修会を国府カントリーエレベーターで開催した。

吉城地区における酒米品種「ひだほまれ」は、熟期・作柄とも平年並みが見込まれ9月上旬から

の収穫を間近に控え、登熟後半の水管理と適期の収穫が品質を決めるポイントとなっている。

農業普及課では、栽培管理研修として今年の生育状況について解説するとともに、品質を決定づける登熟後半の水管理と適期の収穫について指導をおこなった。

参加した酒米生産者は、ほ場で稔り具合をお互いに確認し収穫適期について意見交換など、品質向上に向け有意義な研修会となった。



【生産者同士で意見交換】

■ 水稲 採種ほ場の審査を実施

丹生川採種組合では、約22haのほ場において、県内に水稲の種子として供給される「たかやまもち」や「ひとめぼれ」など5品種を栽培している。

8月上旬～下旬には、岐阜県主要農作物種子審査員である農業普及課職員が中心となって、採種組合役員やJAひだ職員の協力のもと、ほ場毎に生育状況や異品種や変異株の有無、雑草や病害虫の発生状況について基準を満たしているか審査した。

今後、農業普及課では、適期刈取指導や生産物審査等を実施し、次年度の水稲種子が確実に確保できるよう指導を進める。



【ほ場に入ってしっかり確認】

■ メロン 飛騨メロン研究会が共進会開催

飛騨メロン研究会はメロン生産の規模拡大と栽培技術の向上を目的とし、毎年メロン共進会を行っている。

本年度は、8月5日に第38回となる飛騨メロン共進会が開催され、2個入り化粧箱2箱を1点とし全14点が出品された。

共進会では、市場関係者や飛騨農林事務所、飛騨農業協同組合、JA全農岐阜飛騨地域駐在ら7名が審査員となり、メロンの形や大きさ、玉揃い、模様、味、糖度などを審査し、最優秀賞1名と優秀賞3名が決定した。最優秀賞者には、上口飛騨農林事務所長から岐阜県知事賞が贈呈された。

出品されたメロンの一部は、翌日、高山市内のスーパーの販売会に出され、飛騨メロンの販売促進にも繋がった。



【農家自慢の飛騨メロンを審査】

■ トウモロコシ とうもろこし部会が目揃会を開催

吉城蔬菜出荷組合特産部会とうもろこし部会では、15戸（1.2ha）にてトウモロコシ生産を行っている。

8月1日には、本格的な出荷を前に部会による目揃会が行われ、生産者やJA担当者が参加し、今年度のトウモロコシの出荷要領の確認を行った。

今年度のとうもろこし部会の出荷は、8月中旬には終了したが平年並みの出荷量で、生育状況が順調だったことから味も甘く、販売先からも高い評価を得ることができた。

農業普及課では、次年度も良質なトウモロコシが生産できるよう支援していく。



【トウモロコシ目揃会の様子】